

hot flashを主訴とする更年期障害に クラシエ白虎加人参湯エキス細粒が奏効した5例

医療法人jMOG 田辺レディースクリニック (大阪府) 田辺 晃子

閉経とは卵巣機能が消失し、1年以上月経がなくなって初めて診断されるが、その前後数年を更年期と呼び、hot flashなどの自律神経失調症状を主とする更年期症状が出現する。日常生活に支障をきたす更年期障害に対しては女性ホルモン補充療法が奏効するが、乳がんや血栓症といった副作用を懸念して、漢方を希望する患者は多い。本稿では、白虎加人参湯が奏効した更年期障害の5症例を紹介する。

Keywords 白虎加人参湯、更年期障害、hot flash

はじめに

女性はおおむね51歳前後で閉経を迎えることになるが、その診断に客観的評価基準はなく、今まであった月経がなくなって1年以上過ぎて初めて診断される。その数年前から性腺ホルモン(主にエストロゲン)の低下とFSH(follicle stimulating hormone)の上昇を認めるようになり、いわゆる更年期症状が出現し始める¹⁾。更年期症状は数年から10年以上継続することもあり、日常生活に支障をきたす場合を更年期障害と呼び、日常診療における治療対象となる^{2, 3)}。狭義の更年期障害はエストロゲンの低下に起因する症状で、その時期に出現した基礎疾患や加齢現象、環境因子などによる健康障害は含まれない。

典型的な更年期障害の症状の一つに急激なほて(hot flash)がある。発汗を伴ったり、夜間のhot flashで中途覚醒したりするのでQOLを著しく低下させる。効果的な治療法の一つに女性ホルモン補充療法(HRT)があり、数日から数週間で改善効果が得られるが、乳がんリスク、血栓症リスクが存在するため禁忌症例には処方できない。一方で、代替医療、補完医療で改善する患者に多く遭遇する。

症例1 50歳 女性

【既往歴】 橋本病、現在はEuthyroid(甲状腺機能正常)

44歳時に子宮全摘、LSO(内膜症性嚢胞)、右卵巣のみ残存

【身体所見】 身長 156.5cm、体重 55.3kg、BMI 22.6、
血圧 138/66mmHg、71bpm

【主 訴】 発汗を伴うhot flashが1日10回以上、うち2回

夜間覚醒する。

【経 過】 47歳当院初診。FSH 101.0mIU/mL、E2<5 pg/mLであり閉経状態と判断した。子宮内膜症の既往があり、再燃リスクを回避するためにHRTに同意されず、まずはクラシエ桂枝茯苓丸エキス細粒 6g/日(分2)を開始したが、効果不良のため半年後からエクオールを約8ヵ月間併用した。しかしながら夜間3回のhot flashで夜間覚醒するようになったため、漢方方剤をクラシエ白虎加人参湯エキス細粒 6g/日(分2)に変更したところ、3ヵ月後にはhot flashは出現するものの発汗を伴わなくなった。さらに1年経過したところでhot flashは日に数回程度に減少したことを期にいったん自己中断したがすぐに症状再燃し、内服を再開し2年経過した現在も継続内服中である。

症例2 53歳 女性

【既往歴】 多発子宮筋腫、有経時は過多月経あり

【身体所見】 身長 153.0cm、体重 67.1kg、BMI 28.7、
血圧 135/89mmHg、93bpm

【主 訴】 51歳閉経、そのころから発汗を伴うhot flash
日中2~3回、夜間1~2回覚醒する。

【経 過】 FSH 93.4mIU/mL、E2 28pg/mLであり閉経状態と判断し、TSH 2.46IU/mL、freeT4 1.44ng/dL
甲状腺機能は正常範囲と判断した。同時にHbA1c 7.0%、空腹時血糖167mg/dLと糖尿病であることが判明した。未治療糖尿病による深部静脈血栓症リスクと、子宮筋腫再燃リスクを考慮しHRTを選択しなかった。専門内科医に紹介し、糖尿病に対する生活指導が始まった。発汗を伴うhot flashに対し白虎加人参湯 9g/日(分3)を開始し、症状

は軽快していたが日中内服ができず、約半年経過したところでいったん自己中断した。その後1ヵ月もしない間に症状再燃したため、クラシエ白虎加人參湯エキス細粒 6g/日(分2)に変更し再開したところ奏効し、約10ヵ月経過した現在も継続内服中である。

症例3 50歳 女性

【既往歴】 40歳ごろ低用量エストロゲンプロゲステン製剤で肝機能障害歴がある。

甲状腺機能低下症に対しレボチロキシンナトリウム内服中

【身体所見】 身長 155cm、体重 63kg、BMI 26.2、血圧 142/78mmHg、84bpm

【主 訴】 49歳閉経、発汗を伴うhot flash 日中5～7回、夜間1回覚醒する。

【経 過】 1年間の無月経とhot flashを主訴に来院された。FSH 41.8mIU/mL、E2 13pg/mLと更年期状態を確認した。過去に低用量エストロゲンプロゲステン製剤で肝機能障害の既往があるため、HRTに対し慎重になる必要があり、クラシエ白虎加人參湯エキス錠 12錠/日(分3)を開始した。内服開始後に速やかかつ劇的に効果を示し1ヵ月後にはhot flashがほぼ消失した。肝機能はかかりつけの甲状腺内科で定期的に観察されており、異常指摘を受けていない。再燃を恐れ1年以上経過した現在も継続内服中である。

症例4 48歳 女性

【既往症】 28歳時 子宮内膜症性嚢胞に対し腫瘍摘出術

【身体所見】 身長 150.9cm、体重 46.3kg、BMI 20.3、血圧 104/75 mmHg、79bpm

【主 訴】 46歳閉経、発汗を伴わないhot flash、日中頻回出現、夜間数回覚醒する。

【経 過】 エストラジオール貼付剤 0.72mg 1枚/2日貼付およびプロゲステロン 100mg 1cap/日内服によるHRTを開始した。夜間覚醒の回数は減り、hot flashの程度も軽快したが依然症状は残っており、冬でも夜間窓を開けたり、風呂上りは下着のまま冷えたりするまで待機するなど家族から迷惑がられていた。HRT開始後3ヵ月目からクラシエ白虎加人參湯エキス細粒 6g/日(分2)を併用したところhot flashはほぼ消失した。一方でHRTの副作用による不正出血が断続的に出現するため、エストラジオール貼付剤を0.36mg製剤に減量したところ、出血は消失したまま

hot flashの再燃もなく、1年経過した現在も併用し治療継続中である。

症例5 49歳 女性

【既往症】 45歳時、両側卵巣内膜症性嚢胞、および多発筋腫に対し腹腔鏡下单純子宮全摘、右付属器摘除、左卵管切除、左卵巣嚢腫摘除術

【身体所見】 身長 154cm、体重 54.8kg、BMI 22.8

【主 訴】 発汗を伴うhot flash 日中頻回、夜間1～2回出現するため覚醒する。

【経 過】 45歳時に受けた手術後は子宮内膜症再発予防のためにジェノゲスト 1.0mg錠 2錠(分2)を内服していた。約2年経過したところでhot flashが出現し始めたため、ジェノゲストを中止したが軽快しなかった。FSH 78.9mIU/mL、E2 24pg/mLと更年期状態を確認した。子宮内膜症の再燃を恐れているためHRTに同意されず、クラシエ桂枝茯苓丸エキス細粒 6g/日(分2)を3ヵ月間内服したが効果不良のため、クラシエ白虎加人參湯エキス細粒 6g/日(分2)に変更したところ、暑さのピークが抑えられ効果を実感した。1年経過したころに一度自己判断で休薬したが、hot flashが再燃したためすぐに再開し、1年8ヵ月経過した現在も効果良好で継続中である。

今回提示した5症例について白虎加人參湯に起因すると考えられる副作用は認められなかった。

考 察

hot flashはエストロゲンの低下により体温調節中枢である視床下部の機能が不安定となり、自律神経の反応として末梢血管拡張や発汗が誘発されることで生じる更年期症状の一つであり、QOLに影響する⁴⁾。また、hot flashを有する女性では、中途覚醒などの睡眠障害を訴える割合が有意に高く、hot flashは睡眠と強く関連していることが示されている⁵⁾。効果的な治療法の一つにHRTがあり、数日から数週間で改善効果が得られる。しかし、乳がんや血栓症リスクが存在するため禁忌症例には処方できない⁶⁾。そのため、HRTが使用しにくい症例において、漢方薬をはじめとする代替医療や補完医療が有用な選択肢として期待される。また、更年期で悩む世代においては、日中に仕事や家事、さらには介護の負担を抱えていることが多く⁷⁾、日中の服薬が難しいケースが少なくない。日中の服薬を必

要としない1日2回製剤は、更年期女性の生活スタイルに適合しやすく、当院では、服薬アドヒアランスの向上を期待し患者の生活スタイルに合わせて1日2回製剤を選択している。

今回、副作用リスクや子宮内膜症・筋腫の再燃を懸念し、HRTを使用できない、あるいはHRTを使用したものの効果不十分だった症例に対して白虎加人参湯を投与しhot flashのほてりや発汗に奏効した5症例を報告した。今回用いた白虎加人参湯は、構成生薬である石膏および知母が強い清熱作用を有しており⁸⁾、ほてりに対する適応をもつ漢方薬である。夏秋らは白虎加人参湯が適する患者の特徴として顔のほてりの強さを重要視しており、サーモグラフィーによって白虎加人参湯投与50分後より速やかな顔面の皮膚温低下を確認している⁹⁾。またリンドは皮膚疾患に伴うほてりや発汗量について、白虎加人参湯投与2週より著効した症例を経験しており、4週で統計学的有意差をもって改善したと報告している¹⁰⁾。筆者の経験からも白虎加人参湯はhot flashのほてりだけではなく発汗に対しても有効であり、また、患者が早期より効果の実感を得られるため内服継続しやすい漢方薬であると感じている。

また、今回の症例と同様に、既報においてもHRT開始後の顔の赤みやほてり感^{11, 12)}や発汗¹³⁾の残存に対しその有用性が示唆されており、白虎加人参湯はHRT効果不十分な場合の上乗せ治療やHRTが使用できない場合の選択肢の一つとなり得る。

hot flashの代表的な漢方薬として桂枝茯苓丸が挙げられるが、症例1と5では十分な効果が得られず白虎加人参湯へ変更し著効している。漢方医学的にhot flashは瘀血と気逆の合わさったものと捉えられるが¹⁴⁾、桂枝茯苓丸は駆瘀血剤である牡丹皮、桃仁、芍薬で微小循環を改善して瘀血を取り除き、理気剤である桂皮により気逆を解消することで病態そのものにアプローチする一方、白虎加人参湯は瘀血や気逆の結果生じた熱が体内にこもってしまった状態(裏熱)に対し石膏+知母の強力な清熱作用により症状に直接的にアプローチすることができる。また、皮膚疾患患者の顔面の皮膚温を調査した報告では、白虎加人参湯で顔面の皮膚温低下がみられたのに対し、桂枝茯苓丸では鼻部温を特異的に低下させたという結果が得られており¹⁵⁾、白虎加人参湯の薬理作用に不明な点は多いものの、桂枝茯苓丸とは異なる作用を有することがうかがえる。このような差異によって今回の症例でも桂枝茯苓丸が効果不十分な場合にも白虎加人参湯が効果を示したのかもしれない。

本症例では、季節を問わず白虎加人参湯を処方し、良好

な効果を認めた。hot flashは温度変化によっても誘発されるとされているが¹⁶⁾、夏季は気温が高く、冬季においても外気温と室内温度の差が大きくなるため、いずれの季節においても温度変化が生じやすく、症状の増悪因子となり得る。白虎加人参湯に含まれる石膏は、熱ストレスによる体温上昇を有意に抑制することが報告されている¹⁷⁾。hot flashでは、外気温変化によるわずかな体温上昇でも症状が悪化する可能性があるため、石膏による体温上昇の抑制作用が、hot flashの軽減に寄与したと考えられる。

以上より、白虎加人参湯は、副作用リスクや子宮内膜症・筋腫の再燃を懸念してHRTが使用できない、あるいは使用しても効果不十分な症例の場合、あるいは桂枝茯苓丸でも十分な効果が得られない場合の選択肢として、更年期女性のhot flashや発汗に対する有効な治療となり得ると思われた。

【参考文献】

- 1) 北 正人 ほか: 閉経のバイオロジー. 日老医誌 37: 507-510, 2000
- 2) 前林亜紀: 更年期障害. 日大医誌 80: 177-180, 2021
- 3) 寺内公一: 更年期障害に関連する諸要因とその治療戦略. Jpn J Psychosom Med 66: 114-120, 2026
- 4) 岡野浩哉: 特集 産婦人科における素朴な疑問と解説 (1) 婦人科編 I. 女性 4. 更年期症候群はどうして起こるの? いつまで治療するの?. 産科と婦人科 10: 1053-1068, 2022
- 5) Tomida M, et al.: Vasomotor symptoms, sleep problems, and depressive symptoms in community-dwelling Japanese women. J of Obstet and Gynaecol 47: 3677-3690 2021
- 6) 日本女性医学学会: ホルモン補充療法ガイドライン2025年版. 金原出版株式会社. 第4版: 78-83, 2025
- 7) 宮内清子 ほか: 更年期女性に対する健康教育に関する過去10年間の文献検討. 日健教誌 17: 3-13, 2009
- 8) 安井廣迪: 臨床応用漢方処方ガイド. 東洋紙業株式会社: 38-39, 2019
- 9) 夏秋 優: アトピー皮膚炎に対する白虎加人参湯の効果. 皮膚の科学 9: 54-58, 2010
- 10) リンド知子: ほてりに対する白虎加人参湯エキス錠の臨床効果に対する検討. phil漢方 64: 20-21, 2017
- 11) 大津礼子: 更年期障害に対する三大婦人漢方薬以外の有効症例の検討. 産婦人科漢方研究のあゆみ 23: 85-88, 2006
- 12) 木村容子 ほか: 「八味地黄丸」と「白虎加人参湯」の口訣を考える. phil漢方 77: 16-27, 2019
- 13) 織部和弘: 日々の臨床における傷寒論医学の応用 (その10). 漢方の臨床 64: 675-679, 2017
- 14) 陣内里佳子 ほか: 女性によくある症状・疾患への漢方治療. 女性心身医学 18: 197-203, 2013
- 15) 井垣 歩 ほか: 成人型アトピー性皮膚炎患者における漢方薬の清熱効果についてサーモグラフィによる評価. Biomedical Thermology 21: 131-133, 2001
- 16) Cucinella L, et al.: Impact of climate and environmental change on the menopause. Maturitas 178: 107825, 2023
- 17) Kim W, et al.: Ephedra sinica Stapf and Gypsum Attenuates Heat-Induced Hypothalamic Inflammation in Mice. Toxins 12: 16 2019